

学校名	宮城県気仙沼高等学校
活動のテーマ	震災経験の生き方への活用
主な教科領域等	教科領域（教科学習、課題研究活動、学校全体、委員会活動等）
活動に参加した児童生徒数	（ 1～3学年 679人）（複数可）
活動に携わった教員数	65人
参加した地域住民保護者等	6人 【保護者・地域住民・その他（自衛官2名 消防署員4名）
実践期間	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日
想定した災害	地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

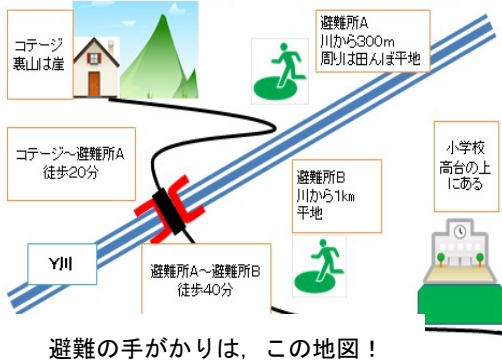
気仙沼高校は、昨年度から文部科学省よりSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定され、「三陸海岸という豊かな自然に抱かれた宮城県“気仙沼”の地から、世界を舞台に活躍するグローバルリーダーを育成する」ことをねらいとして様々な事業に取り組んでいる。国際舞台で活躍するために必要な“コミュニケーション力”“思考力”“多様性・協働性・行動力”の3つの資質を「グローバルリテラシー」と名付け、海を素材とした「協働型学習プログラム」と「東日本大震災復興プログラム」を中心にグローバルリテラシーの育成を目指している。防災に関する学習は、東日本大震災復興プログラムで主に展開している。本校の防災学習のねらいとしては、◎「命を守る行動ができる人」を育てる。◎発災時行動力に資する「自律的思考力」を涵養する。◎協働による防災チームの育成を目指す。◎将来にわたって集団や社会に主体的に参画する意欲を養う。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール

主な取組1【防災講話】 6月21日（水）、本校と気仙沼西高校の1年生（280名）を対象にケーススタディと講話を実施した。第1部では「そのとき、どうする？」と題して、山間のコテージに2泊3日の宿泊研修に出かけたときに大雨に見舞われる場面を想定し、“避難に必要な持ち物の相談”や“天候の変化に伴う避難場所の選択”など天候状況を把握しながらチームで合意形成を図りながら適切な行動することを学んだ。第2部では、ケーススタディの振り返りを交えた「本校の防災学習のねらい」についての講話を実施した。

想定場面
2日目：午前から雨。午後の屋外活動は中止。コテージで待機状態。天気予報は今夜から明日朝にかけて大荒れ。
Q：避難時の持ち物を相談しなさい。（3分）

災害への備え① 避難場所の確認



午後1時→大雨注意報
Q：待機or避難？（1分）
午後3時→大雨警報に！
Q：待機or避難？（1分）
午後4時→土砂災害警戒情報 避難勧告
Q：待機or避難
午後8時→洪水警報も発令
Q：待機or避難？（1分）
午後11時→大雨特別警報 河川氾濫危険情報
Q：待機or避難？（1分）
午前6時：空は晴れ！
大雨警報は継続
振り返り
天候変化の予測と地理的条件を総合的に判断し、チームとしての確な避難行動ができたか？



待機？避難？1分で！

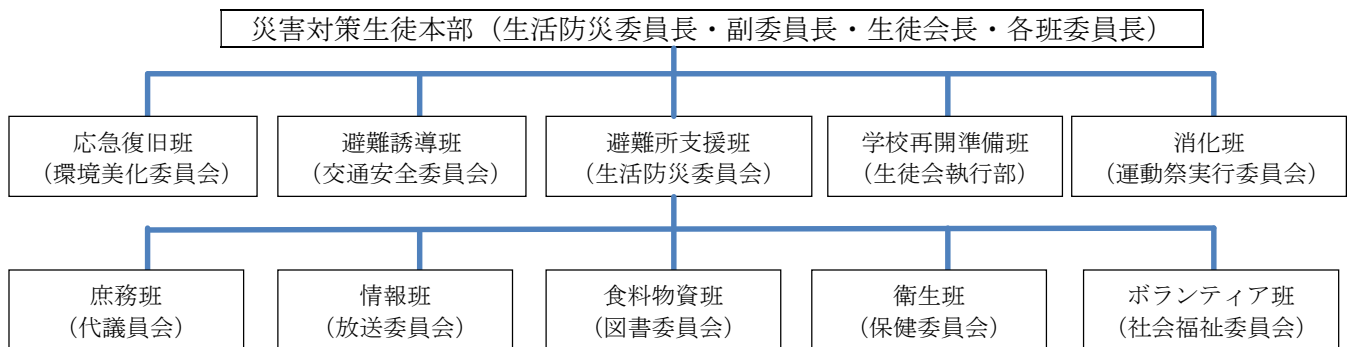


俺たち、やばくね？

主な取組2【防災訓練（春・秋の2回）】

防災訓練は生徒会の生活防災委員会が中心となり、年2回実施している。生活防災委員は事前研修を受け、LHRの時間に実施するケーススタディのコーディネーターを務めたり、避難訓練実施計画の作成にも参画している。今年度、11月に実施した秋季避難訓練では初めて委員会ごとに役割を分担し、組織的対応訓練（避難所設営訓練）を実施した。f

【第二次（避難後）災害対策生徒本部組織図】



3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

以下の三点を踏まえて実践する。①教育は、災害発生時に自助として、共助として活かされものであるべき。②実際にいかに想定し、防災の構え、備えをしておくか。③生徒にとっては、想定にとらわれない、自助のための判断力、共助のための対応力と協働する態度が重要となる。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

●災害に対する組織的対応の強化 ●災害発生時の実際の想定に対する備えの強化

②児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

●自助のための判断力の向上 ●共助のための対応力の向上 ●他者と協働する態度

③教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

●校内防災体制の確立 ●教師と生徒の協働による学校としての組織的対応力の強化

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

●自律的思考力の涵養

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

●地域理解（学校周辺、生徒居住地域、通学経路、通学手段） ●地域連携（自治体、関係機関、小中）

●家庭との連携

●カリキュラムベースでの実践の推進（教育課題の明確化にし、教科横断的に継続的に取り組む）

●防災教育を意欲的に推進する校内人材の育成

7) その他

●助成金の活用

防災ハンドブックの作成・・・万が一の災害への備えと、災害が起きたときの対処方法

内容 ①学校周辺の防災マップ ②我が家の防災メモ ③災害時に役立つスマートフォンの使い方

④非常持ち出し袋 ⑤避難方法

*④⑤は、生徒の課題研究の成果